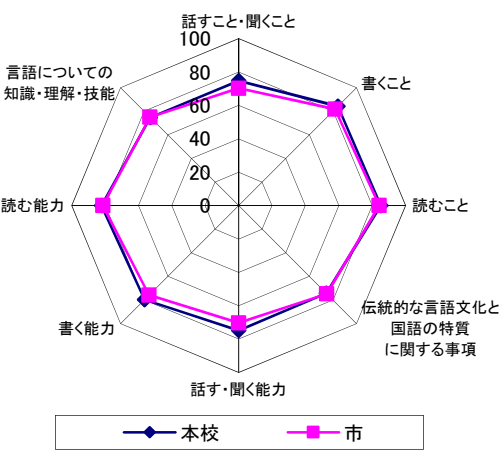


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.8	70.3	68.2
	書くこと	84.1	81.7	80.6
	読むこと	85.1	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.3	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	74.8	70.3	68.2
	書く能力	79.7	76.0	74.1
	読む能力	82.1	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	74.7	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

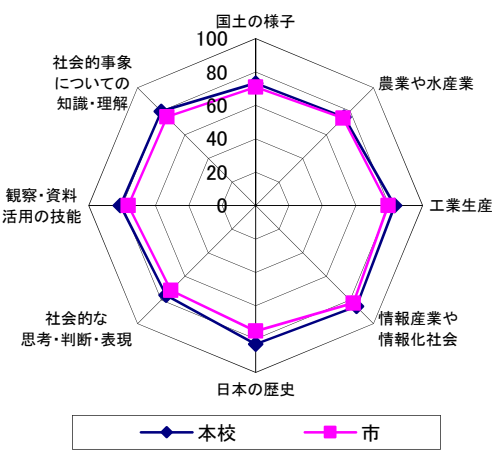
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は74.8%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○活用の記述式問題では、68.8%の正答率で、市を18.8ポイントも上回った。活用の力が定着してきている。計画的な話し合い方についての知識も身につけている。 ●その反面、意見を一つにまとめる提案をする記述式問題では、55.2%の正答率で、市を0.5ポイントとわずかに下回っている。	・計画的に話し合うことについては十分身につけているが、話し合いの観点に沿った意見の提案という分野が弱く、筋道の通った提案の仕方を学習させる必要がある。 ・議題や、課題に沿った意見を書かせる活動を取り入れ、論理的な思考につなげたい。
書くこと	・平均正答率は84.1%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○グラフから読み取ったことを書く設問における正答率は79.2%と市の平均を7.1%上回っており、他教科での学習が国語につながっていることが感じられる。 ●自分の意見を書く設問では86.5%の正答率で、市の平均を2.0ポイント下回る結果となった。事実関係が読み取れていながら、意見を表現することにつながっていない。	・資料の活用や、事実関係を文章に書くことは十分身につけている。それができていながらも、意見を書くことができていない現状を踏まえ、事実に対して意見を書く学習を繰り返す必要がある。
読むこと	・平均正答率は85.1%で、市の平均を0.8ポイント、わずかだが上回った。 ○説明文の内容を的確に読み取ることに關しては、どの設問でも市の平均を3～10ポイント上回っており、論理的に文章や、筆者の意見を読み取る力の定着を感じる。 ●反面、物語の内容を読み取る設問では、市の平均と同等か下回っており、特に情景描写に関しては6.9ポイントも下回る結果となった。	・登場人物の心情を文章から読み取り、想像する学習に取り組ませる。 ・場面の描写を抜き出させたり、書き写したりして、情景描写と人物の心情のつながりについて習熟する学習に取り組ませる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は74.7%で、市の平均を0.4ポイント、わずかだが下回った。 ○漢字の読みに関しては、ほぼ市と同程度の正答率だった。 ○文の構成に関する理解度は、市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●第5学年配当漢字においては、総合的に見て、市の平均正答率を下回った。	・全学年までの配当漢字の習熟、その際、辞書の活用を合わせて行わせ、言葉への理解を深める学習を取り入れたい。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.3	71.0	69.4
	農業や水産業	75.0	74.0	69.0
	工業生産	83.3	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	85.4	82.8	88.7
	日本の歴史	83.0	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	75.9	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	81.0	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	80.0	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

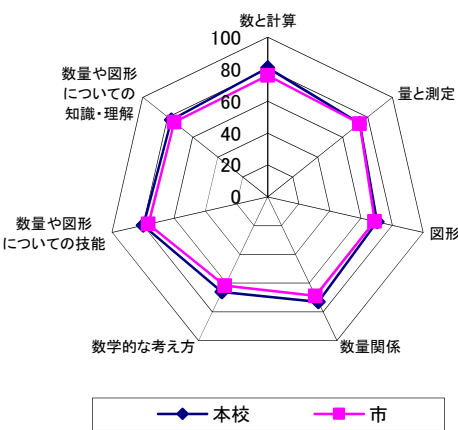
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・平均正答率は、73.3%で、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ○日本周辺の海洋名の理解度は市の平均を10ポイント程度上回っている。 ●国土の山脈、川、平野等の名称についての正答率は60%程度で、やや定着度が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国内の地理についての理解を深めるため、白地図等を活用して定着を図る。 ・名称と、県名・旧称とのかかわりに触れ、興味関心を高める指導を行う。
農業や水産業	・平均正答率は、75.0%で、市の平均を1.0ポイント上回っている。 ○食料生産物の分布の資料の読み取りは、91.7%と、市の平均を7.5ポイント上回っている。 ●日本の食料確保に関する問題を読み取る活用問題においては、41.7%の正答率で、市の平均を7.8ポイントも下回る結果になってしまった。	・日本がなぜ食料確保に課題を抱えているのかを、地理的な観点から考えさせる。 ・知識的な観点は十分定着していても、そこから自分の考えを見出すことに慣れていない。資料から、読み取ったうえで、自分の考えを持つような機会を多く与えたい。
工業生産	・平均正答率は、83.3%と高く、市の平均を4ポイント近く上回っている。 ○工業生産従事者の工夫や努力に対する理解度は97.9%の正答率で、非常に高い。総合的な学習の時間、「働く」ことについて考えていることが関連しているか。 ●工業製品の種別分類については68.8%と、正答率が低い。市の平均を上回っているものの、課題が見られる。	・工業製品の種別に分けについて、原料と加工方法にも触れながら学習させる。
情報産業や情報化社会	・平均正答率は、85.4%と、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○資料活用の設問においては81.3%の正答率で、市の平均を10ポイント以上上回っており、情報産業への理解の深さがわかる。 ●情報手段への理解力が低かった。	・やはり、情報の伝え方と、メディアとの関連に触れ、興味関心を持たせたうえで、種類について学習させる。
日本の歴史	・平均正答率は、83.0%と、市の平均を8.2%も上回っている。 ○どの時代においても、ほぼ市の平均を上回っており、歴史事項に関する関心の高さが学習の定着につながっていることを感じる。 ●十七条の憲法の目的についての設問では、58.3%の正答率で市の平均をここだけ1.0ポイント下回った。	・聖徳太子の為政について、国の起こりと関連させて考えさせたい。また、自分が為政者の立場だったらどう国を治めていくかを考えさせ、その時の治世のねらいを考えさせる学習を取り入れる。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.9	76.1	73.5
	量と測定	73.6	73.6	70.1
	図形	70.3	68.8	66.6
	数量関係	73.0	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	66.1	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	80.0	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	77.3	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

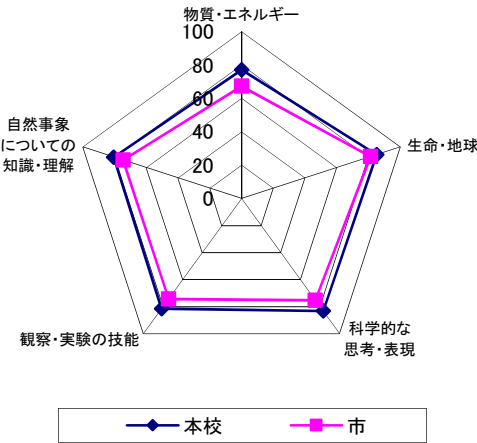
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は、80.9%と、市の平均を4.8ポイント上回った。 ○基本的な四則計算への理解度は非常に高い。 ○図と小数の除法の関係を読み取る問題では、正答率が79.2%で、市を18.8%も上回っており、数直線を活用して学習を繰り返した結果が表れた。 ●活用問題で、答えを求められたが理由を答えられなかった児童が多かった。	・今後も数直線を活用し、何を求めようとしている計算なのかを明確にしたうえで計算に取り組ませる指導を継続していく。 ・正答にたどり着くだけでなく、どのような思考順序で解答に至ったのかを明確にし、文章化する学習を多く取り入れていく。
量と測定	・本校の平均正答率は、73.6%で、市の平均と同等だった。 ○面積・体積の分野については、理解度が高い。 ○速さに関しても市の平均を上回ったといえる。 ●単位量あたりの大きさへの理解度が著しく低く、平均正答率は37.5%で、市の平均を12.5%下回った。割合の理解度が低い。	・単位量という概念について補充学習を行う。 ・平均・割合・単位量という学習において、個別学習を十分にいき、定着させる。 ・数直線に慣れていることを利用して、未知数が何に当たるのかを十分理解させ、立式させるようにする。
図形	・本校の平均正答率は、70.3%で、市の平均を1.5%上回った。 ○三角形の作図に関する設問では、97.9%の正答率で、作図を徹底習熟させた昨年度の学習が生きた。 ●線対称に対する理解度は、39.6%と非常に低く、市の平均を8%近く下回った。	・線対称の設問では、図形を一方向からしか認識できなかったゆえの誤答が目立った。図形を多面的にとらえるように、様々な線対称な図形に触れさせたい。
数量関係	・本校の平均正答率は、73.0%で、市の平均を4.1%上回った。 ○割合と比に関する分野では、活用の問題を含め、どの設問においても市の平均を上回っており、円グラフについては100%の正答率だった。 ●文字の式への理解度は二つの設問ともに市の平均を下回った。 ●反比例についての設問は45.8%の正答率で、市の平均を宇和待っているものの低い。	・文字式についての概念が理解できていない児童に対して、□に当てはめて計算した経験を想起させることで、概念をとらえやすくする。 ・式と計算の関係を様々に入れ替え、計算させることで、未知数の意味について理解させる。 ・反比例の関係について、具体的な事例をもとに理解させる。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.2	67.3	64.4
	生命・地球	85.1	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	83.2	75.3	72.6
	観察・実験の技能	81.4	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	80.5	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は77.2%で、市の平均を9.9ポイント上回っている。 ○ふりこのはたらきに関する問題では、全ての設問において市の平均を上回っており、活用問題において顕著だった。 ○電流のはたらきに関する問題でも、全ての設問において市の平均を上回っており、十分な定着が見て取れる。 ○水溶液の性質での、結果から予想を検証する問題においては、正答率が70.8%と、市の平均を11.7ポイントも上回っており、予想、実験、結果、考察についてそれぞれ考えさせた授業の成果が表れた。 ●水溶液の性質に関する問題では、塩酸の性質についての設問でわずかながら市の平均を下回った。	・学習した内容を、日常生活の物質に置き換えたり、具体的な出来事との関連を考えさせたりして、事象の仕組みや関係を考えさせていく力を育成していく。 ・知識的な分野での正答率の個人差が目立つ。各单元ごとに確認する時間を設け、十分身につくようにしていく。 ・塩酸の性質について実験を通して理解を深めさせる。 ・今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図ると同時に、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れながら、科学的思考を養っていく。
生命・地球	・平均正答率は85.1%で、市の平均を3.8ポイント上回っている。 ○生命・地球の領域においては、ほぼすべての設問において市の平均を上回っており、平均的に定着が図れていることがわかる。 ○月と太陽に関する問題では、月の見え方から位置関係を調べる活用問題において正答率が非常に高い。 ●動物のからだのつくりとはたらきにおける、肝臓・小腸の仕組みへの知識がやや低めであった。	・体の仕組みにおいて、消化器官に関する知識を十分身につけられるよう、デジタル教材や、図鑑等を活用し、理解を深めさせていきたい。 ・授業において、ミニテストを行いながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていくと同時に、自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力の育成に努め、各観点での定着度の底上げをする。

宇都宮市立昭和小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	学力アップ月間を設け、家庭学習の記録をつけることで自分の家庭学習の内容や時間を見直したり、学年便りや学校便りで家庭にも啓発したりし、学校と家庭と連携して、家庭学習のさらなる定着を図った。	家庭学習に関する質問の「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」「宿題をきちんとやり、期限までに提出しているの肯定群回答割合が、どれも市の平均を上回っていた。また、「自分で計画を立て、家庭学習に取り組んでいる」でも、肯定解答率が71%以上と計画的に自主学習などの宿題以外の家庭学習をする習慣も身に付いてきている。
自分の考えを表現する力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動を意識して取り入れることで、自分の考えを表現する力を身に付けさせた。また、考えの交流をする場を取り入れることで、表現が深まったり、広がったりするように工夫した。	6年生の学力テストの結果、国語でグラフから読み取ったことを書く設問における正答率は79.2%と市の平均を7.1%上回っており、目的に合った表現方法や表現内容を身に付けてきた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・じっくりタイムや家庭学習を通して復習する機会を設け、基礎・基本の定着を図る。
- ・学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるよう、児童が自ら考え分かりやすく表現できる学習活動を重視する。